

「造船産業に関する海外調査報告セミナー」の開催報告

平成 18 年 3 月 13 日(月)14:30～18:00 に日本財団 2 階大会議室にて、日本財団のご支援をいただき、日本船舶輸出組合との共催で「造船産業に関する海外調査報告セミナー」を開催いたしました。



今井 新 氏の講演



加藤 光一 氏の講演



赤星 貞夫 氏の講演



遠藤 宏 氏の講演

講演内容は、最近、海外で情報収集を担当した方々による、日本、欧州、中国の造船業についての現状報告、及び事業分析の専門家による日本造船業界の今後の方向性などについて、それぞれご講演いただきました。また、各講演後は「日本造船産業の競争力」と題し、各講演者をパネリストにパネルディスカッションを行いました（講演要旨及び各講演者プロフィールについては、別添参照。）



セミナー会場



パネルディスカッションの様子

当日は、240名という多数の方々にご来聴頂くことができました。報告会開催にあたり、多大なご支援・ご協力を頂きました日本財団をはじめとする関係団体、ご講演者及びご来聴いただいた皆様に改めて厚く御礼申し上げます。

1. 議事次第

- a) 開 会 (14:30)
- b) 主催者あいさつ(輸組・福田専務理事)
- c) 世界造船業の需給と国際協調【今井 新 氏】
- d) 欧州造船業の戦略【加藤光一 氏】
- e) 最近における中国造船産業の現状【赤星貞夫 氏】
- f) 造船産業の動向・競争力等に関する調査・分析について【遠藤 宏 氏】
- g) パネルディスカッション「日本造船産業の競争力」【全講演者参加、Facilitator:加藤光一氏】
- h) 閉 会(17:50)
- i) 懇親会(18:00)
- j) あいさつ(乾杯)【船技協・津田理事長】

2. 講演要旨

- a) 「世界造船業の需要と国際協調」(今井 新 氏)
2010 年以降は、激しい競争により船価が低迷し、日本造船業界にとっては厳しい経営が予測される。さらに、2015 年には供給過剰も予測される。
- b) 「欧州造船業の戦略」(加藤 光一 氏)
欧州は、脱・助成体質を主体的に、産と官とが共同で業界再編へ対応している(買収による吸収合併の大きな動きも見受けられる。)、研究開発費にも多額の補助金を搬出するなど戦略的な取り組みが実施されている。造船業の売上高は、日本、韓国を上回っている。コンテナ船・ケミカル船の竣工量も増加傾向にある。
- c) 「最近における中国造船産業の状況」(赤星 貞夫 氏)
中国は、世界一の造船国となるべく、国を挙げて造船業の発展に取り組んでいる(関税措置の優遇も行われている。)、大型の造船基地は3カ所(上海、広州、渤海湾)で、大型船、高付加価値船、海洋開発を対象。中国船は船価志向(品質軽視)の実態もあり、新造船に対する評価はこれからとなる。
- d) 「造船産業の動向・競争力などに関する調査・分析について」(遠藤 宏 氏)
日本造船業界の方向性としては、研究開発・設計に特化、研究開発・設計+建造(従前どおり)、建造に特化、の3つの戦略がある。国内での生き残りには、少ない船主からのニーズに対する的確な対応が必要。また、低コスト化には海外調達、生産拠点の海外移転などが挙げられる。
- e) 「日本造船産業の競争力」(パネルディスカッション)
日本造船産業の競争力と題し、需要拡大はいつまで続くのか? 需給ギャップは来るのか? 日本の戦略は? の3つのポイントについて、各講演者をパネラーに加藤光一氏を Facilitator として、パネルディスカッションを行った。

3. 講演者のプロフィール

後援者のプロフィールは、次のとおり(順不同)。

- 今井 新 氏 : (財)日本船舶技術研究協会 基準・規格グループ主任研究員(前 OECD 運輸課アドミニストレータ)
- 加藤 光一 氏 : (財)日本海事協会 企画部 副参事 (前 ジャパンシップセンター次長)
- 赤星 貞夫 氏 : (独)日本貿易振興機構 上海センター 船用機械部長
- 遠藤 宏 氏 : みずほコーポレート銀行産業調査部調査役

4. 本セミナーに関するお問い合わせ先

お問い合わせ先 : (財)日本船舶技術研究協会 企画・研究開発グループ
仁平 一幸(にひらかずゆき)
TEL : 03-3502-2133、FAX : 03-3504-2350、e-mail : nihira@jstra.jp